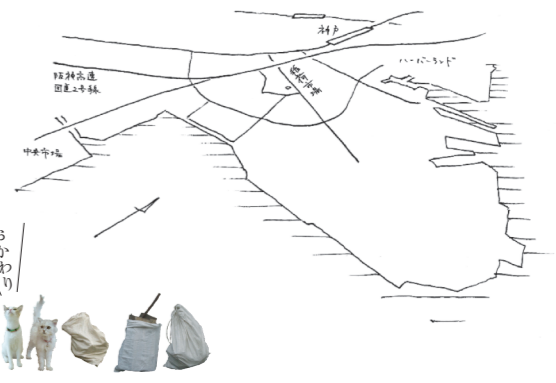


まちのレシピ その10

まちをつくるには建築だけではありません。コミュニケーションも大切な要素のひとつ。今回は、完成して1年が経ち、今では人情味であふれる「チカちゃんハウス」をご賞味ください。
文・写真=赤松麻衣 もしまし広報担当 <http://www.sumicomi.com>



1 今回のお題

手をあわせて!

住みん所さん

2 いただきます

たくさんの人に支えられ、無事「チカちゃんハウス」が完成しました。工事でお世話になった人、完成後に一緒にイベントを企画した人、今でもずっと関係が続いている人。丹誠込めてつくり上げたこの場所が、人とかかわり合いの拠点となっています。
家主さん、まちの人、まちの子どもたちもよく遊びに来てくれ、毎日暖かい人情を感じています。
市場で行われるイベントに1階を開放したり、『もしまし』企画の稲荷芸術祭も開催し、まちと暮らす楽しみがどんどん増えました。

3 家主さん



家主さんの山本忠勇さん（左）。「チカちゃんハウス」がきれいになって、一緒に喜んでます。昔はこの場所で、一日1000個もクロッカを揚げていたそうです。

8 絵本の読み聞かせ



住みん所さんの六條さんはとっても読書家。場所が無く、市場の通路で催していた絵本の読み聞かせを、「チカちゃんハウス」で開催。子どもたちに大好評でした。

9 稲荷芸術祭

稲荷市場全体を使った、「稲荷芸術祭」を企画・開催しました。市場全体を歩き回ってもらうため、すべての会場でスタンプを集めると、特製パッチと交換できるようにしました。「チカちゃんハウス」の裏にある松尾稲荷神社のビリケンさんにちなんだビリケン鈴を作り、当日市場で買い物した人にプレゼントしました。



まちの職人さんが使わなくなった小さな部品を材料に、自由な発想でがらくたキーホルダーづくりをしました。色とりどりの部品に、子どもたちの目はとても輝いていました。



点在する空き地を利用して、大きなキャンパスに絵を描く企画。いつもはカードゲームに夢中な子どもも、子ども連れの母親も、のびのびと自由に楽しんでくれていました。

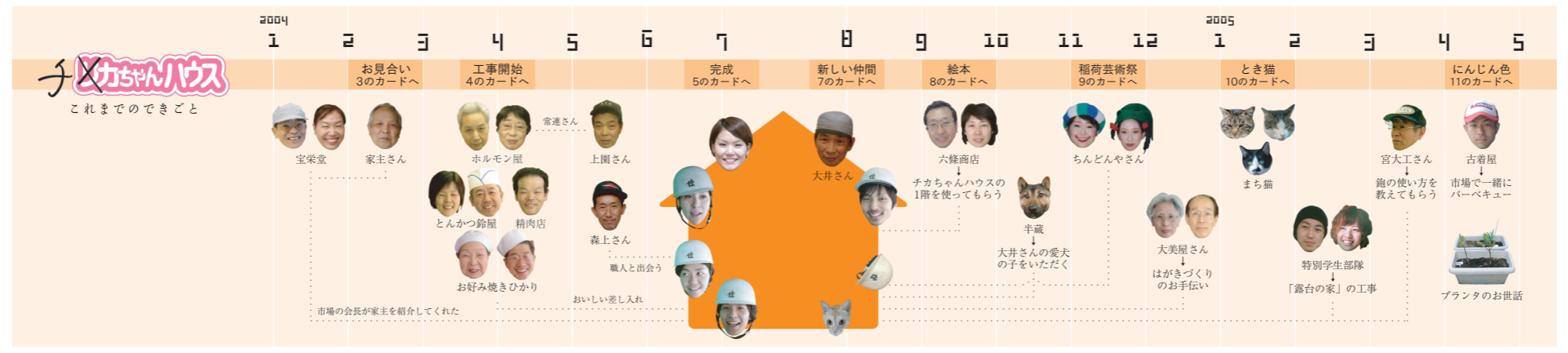


稲荷市場独特の「こと・もの・風景」を「稲荷遺産展」として、写真パネルや映像作品で紹介。家主さんの山本さんにお借りした、20年前の市場の貴重な映像も上映しました。

4 おいしい差し入れたち



住みん所さんたちの顔が見えてくるおいしい差し入れたち。一日の仕事を終えた住みん所さんが毎日持ってきてくれました。すべて翌日のエネルギーに早変わり。



10 ときめき猫リアル



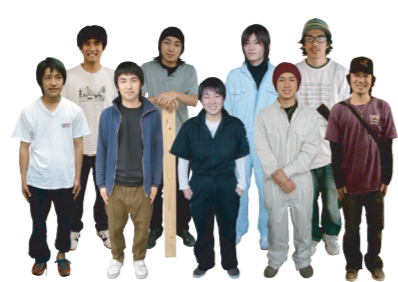
人とのコミュニケーションだけでなく、まちの猫とも素敵な関係をつくっていく試みです。なかよしアイテムを自作し、猫心をくすぐる。早く仲良くなりたいな。

5 お披露目会



住みん所さんたちがおいしい食事を準備してくれ、お披露目会は始まりました。昔のまちの話、工事の話で大盛り上がり。この日は遅くまで晩酌を交わしました。

6 特別学生部隊



神戸芸術工科大学の学生・卒業生で構成されています。実測から仕上げまで、たくさん仲間の手伝ってもらいました。市場のイベントでも活躍してくれました。

7 大井さん



新しく『もしまし』の仲間になった大井さんは、今でも電気工事してくれます。最近では「露台の家」の工事で大忙し。素早い職人技に惚れ惚れしてしまいます。

11 にんじん色



完成してから一年が経ち、着せ替え工事をしました。木作業の工具を買い足し、床を住みみカラーの人参色に防塵塗装。これからの活動に胸が膨らみます。

12 さいごに

まちでの生活が始まって、ちょうど1年が経ちました。買い物途中や、犬の散歩の帰りに毎日寄ってくれるおばあちゃん、会社帰りに声を掛けてくれるサラリーマン。マンション住まいでは触れることのなかった、まちなかでのコミュニケーション。
まちの一員となり、まちなかでのコミュニケーションがこんなに大きく広がっています。そんな中で生活は、人と人とかかわりという、忘れかけていた大切なことを思い出させてくれます。最後に、これまでご購入いただいたみなさま、ありがとうございました。

にんじん。「人が参る」と書いて、人参。ここでは自然と人がやってくる、人と会うことができます。かかわる自分と相手によって違う味に育つ。その味はコミュニケーション次第。根っこを張ってまちに「住みこむ」。だからこそできる関係。私たちは、おかげさまで毎日おいしい人参をいただいています。
みなさんお味はいかがですか？
住みコミュニケーションプロジェクト 代表・三宗匠

